

カレーだけではなく！ウコン染めにも利用

ウコン (ショウガ科)

Curcuma longa Linné

部位	根茎
生薬名	鬱金 (ウコン) 局方収載
成分	クルクミン (黄色色素)、 α -ツルメロン (セスキテルペン)
薬理	利胆作用、芳香性健胃作用
薬能	駆瘀血薬
漢方	中黄膏



2023年の8月号にウコンの花期として一度紹介しました。今回は、根茎を収穫しましたので再登場ということになります。本植物は、寒さが苦手なため、掘り越した根茎を温室内で保管し越冬させ、春に圃場へ定植しています。薬用部位の根茎は主根茎と側根茎からなり、卵型の主根茎から多数の円柱型の側根茎が分岐します。断面は黄色く芳香があります。また、根の先には紡錘形の塊根（貯蔵根）を持ちますが、本園のウコンには塊根が付きません。日本には室町時代に琉球を経由して伝わったとされています。カレーの色として有名ですが、漢方薬にも使用されます。また、ウコン染めの木綿（鬱金木綿）は、鮮やかな黄色で抗菌作用や防虫、防カビ作用も期待できるため、産着（魔除けの意味合いもあり）や美術品、反物などを包む布として広く使われてきました。また、赤ちゃんの「よだれかけ（スタイ）」にも利用され、口元を清潔に保つ目的や布を吸うことにより少しずつウコン成分が体内に入り、胃腸を丈夫にするという効果も期待しました。

マンリョウ (サクラソウ科)

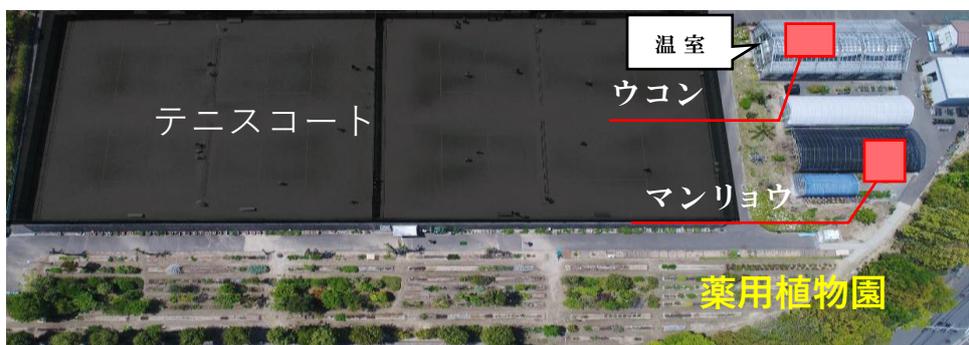
お正月の生花として、縁起物の万両

Ardisia crenata Sims

部位	根、葉
生薬名	根：珠砂根 (シュシャコン) (中国薬典2020に収載)
成分	アルジシクレノシド類 (サポニン)、ベルゲニンなど
薬理	抗腫瘍作用、抗炎症作用
薬能	清熱消腫、活血止痛、祛風湿薬
用途	咽頭痛、月経困難症、リウマチの治療に使用される



台湾、朝鮮、中国、東南アジア、インドに分布し、日本では関東以西～沖縄の山林に生える常緑低木。江戸時代の後期に多くの園芸種が作出され、お金の単位に「両」が用いられるようになり「万両」は富のシンボルとして、縁起物となりました。普段、私達が目にするものは、観賞用の園芸品種が多いです。一方、野生では樹高が1mほどあります。中国では、根を「珠砂根 (シュシャコン)」と呼び、生薬として利用されますが、日本の漢方薬には配合されず、同じような赤い実を付けるセンリョウ (千両) とともに、お正月を彩る植物として利用されています。実の付き方で、千両箱の重さから葉の上に「千両」、葉の下に「万両」と覚えると良いでしょう。



ホームページでも
ご覧いただけます